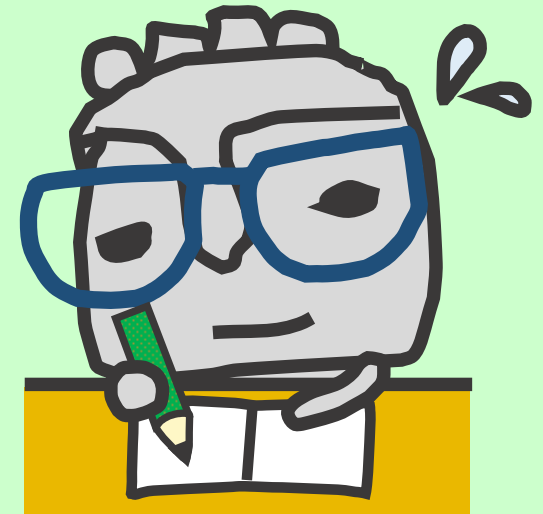


令和8年度

全国学力・学習状況調査 臼杵市各教科・質問紙調査の分析

令和8年4月23日(木)実施
小学校(国語・算数)
中学校(国語・数学・英語【CBT】)
質問紙調査



臼杵市教育委員会 学校教育課

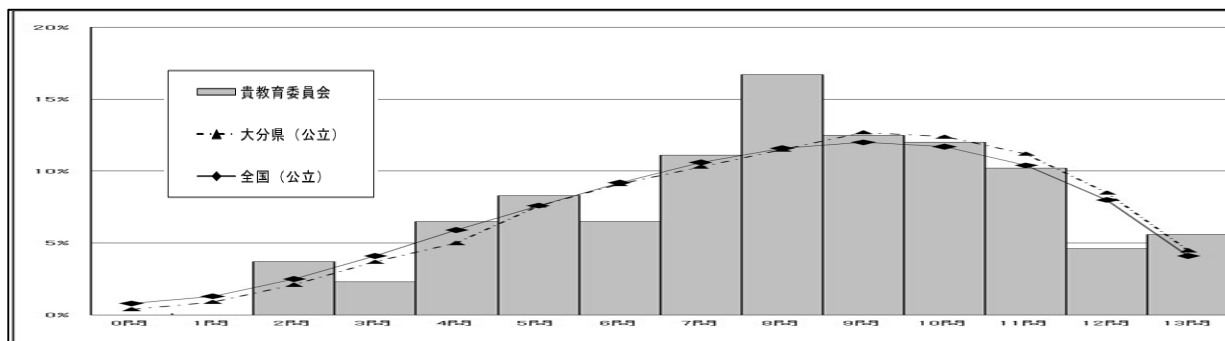
■結果のポイント

1 調査結果【正答率】

市	県	全国
62	63	60.9

○全国平均を上回る。
▲県平均を上回る。

4 正答数度数分布



□低学力層の児童の割合(正答率20%以下)が▲県平均より多いが、○全国平均より少ない。
○正答数が全国平均以上(8問以上)の児童の割合は県・全国平均を上回る。

2 領域別の結果【正答率】

観点	市	県	全国
言葉の特徴や使い方に関する事項	67.7	69.9	66.8
情報の扱い方に関する事項	54.2	53.6	52.3
我が国の言語文化に関する事項	—	—	—
話すこと・聞くこと	68.4	66.9	65.8
書くこと	45.1	45.4	45.7
読むこと	65.0	68.5	65.9

○「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」の領域で全国平均を上回る。
▲「書くこと」「読むこと」の領域で全国平均を下回る。

3 観点別の結果【正答率】

観点	市	県	全国
知識・技能	63.2	64.5	62.0
思考・判断・表現	60.8	61.2	60.1

○全ての観点で県・全国平均を上回る。

■課題が見られた問題【正答率:低】【無解答率:高】

大問3三(1)

	市	県	全国
正答率	44.9	55.1	55.5
無解答率	0.5	1.8	3.3

【問題の概要】

【話し合いの様子の一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する

【出題の趣旨】

目的に応じて、必要な情報を見付けることができるかをみる

【課題】

【文章】に書いてあることをだいたい把握し、問題文の「下線部(ア)」に示しながら」に注目していない。「苦手なことも好きなことがある」ということと同じ文意のものを選べていない。必要な情報を探せていない。

この文章は簡単に言うと、「苦手なことも好きなことがある」ということを筆者の経験をもとにまとめているものである。「苦手なことも好きなことがある」ということについて、様々な事例をもとに語られているものだという捉えができていない。さらに問題文にも、「下線部(ア)」を示しながら…」と指示されているのに、そこまで戻って解こうとしていないと感じられる。

「苦手なことも好きなことがある」という筆者の考えを踏まえていれば、解答の選択を間違うはずがない。しかし、正答率は4割にとどまっており、更に「得意なものも嫌い」という逆パターンの解答を選んだ子どもも3割近くいる。

▲文章に書かれていることやキーワード(センテンス)を見つけることができない。(大まかにでも、こんなことが書いてあると把握できるようになってほしい)

▲問いの骨組み(主語・述語の関係)を正確に把握できず、条件やヒント等の指示事項を主体的・効果的に活用する姿勢に課題がある。

☆指導の具体【臼杵市で取り組むこと】

○目的に応じて、必要な情報を見付けることができるかどうかをみるためには、

- ①どんなことが書かれているか、考えながら読む。
- ②文章題のヒントも生かそうとする。
- ③「苦手なことも好きなことがある」と「得意だけれど嫌いなことがある」の違いを明確にする

【想定されるつまづきに応じた学習指導のポイント】

★想定されるつまづき

文を読んでも、何が書かれてあったかわからない。考えながら読むことが難しい。

★学習指導のポイント

授業の際も、何が書かれてあるのかを考えながら読ませたい。
例えば、「後から、何が書いてあったか聞くと」と事前に伝えておく意識して考える習慣がつく。それを学級全体で確認し、キーワードや繰り返し使われている言葉等に注目することが、著者の言いたいことが見えてくる経験を積む。

設問や目的に応じて必要な情報を主体的に収集し、根拠として活用する力に課題がある。

示された箇所をきちんと見ることで、解答できるようになる。ポイントとなる言葉やフレーズを見つける。

《学校でできること・家でしていただくこと》

- ・「よむよむワークシート」を使って、文を読むこと、読んだ内容を簡単にまとめる習慣をつける。
- ・新聞やニュースを見て、その感想や思ったことを言葉で伝え合う。(文を要約したり、ポイントとなるフレーズを見つける習慣をつける。)

■結果のポイント

1 調査結果【正答率】

市	県	全国
60	58	56.4

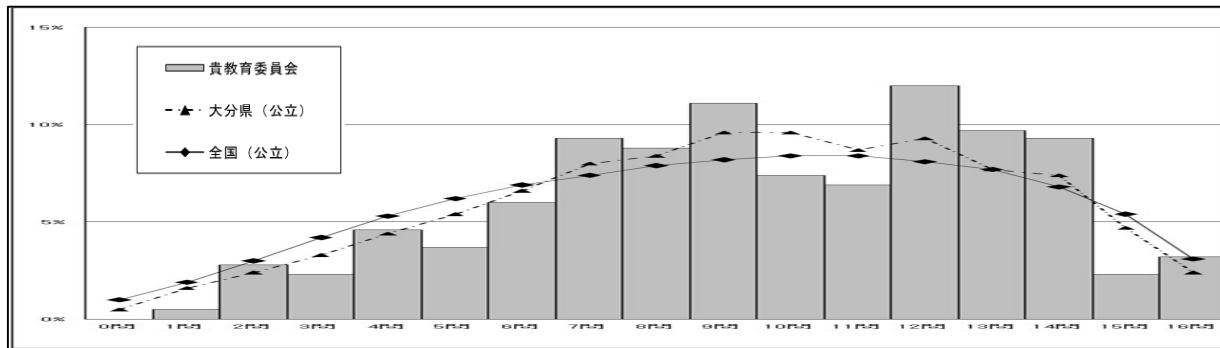
○県・全国平均を上回る。

2 領域別の結果【正答率】

観点	市	県	全国
数と計算	64.0	62.3	61.1
図形	57.1	56.5	55.3
測定	81.5	77.9	78.1
変化と関係	41.4	39.1	41.1
データの活用	53.2	50.6	48.6

○全ての領域で県・全国平均を上回る。

4 正答数度数分布



○低学力層の児童の割合(正答率20%以下)が県・全国平均より少ない。
○正答数が全国平均以上(9問以上)の児童の割合は県・全国平均を上回る。

3 観点別の結果【正答率】

観点	市	県	全国
知識・技能	62.7	61.1	60.1
思考・判断・表現	51.5	48.3	45.4

○全ての観点で県・全国平均を上回る。

■課題が見られた問題【正答率:低】

大問1(3)

	市	県	全国
正答率	32.4	38.0	40.1

【問題の概要】

1立方センチメートルの立方体を36個使ってできた直方体の体積を書く

【出題の趣旨】

体積の意味について理解しているかどうかをみる

【問題】

1cm³の立方体が36個あります。36個をすべて使って、高さが4cmの直方体を1つ作りました。その立方体の体積は何cm³ですか。答えを書きましょう。

解答類型

正答	36 (cm ³)
誤答例	• 144 (cm³) ⇒ $36 \times 4 = 144$ 問題にある数字を機械的にかけている。 • 9 (cm³) ⇒ $36 \div 4 = 9$ 問題にある数字を機械的に割っている。

☆指導の具体【臼杵市で取り組むこと】

【児童のつまずきを確認】

体積の本質的な意味(単位積みが何個分か)の理解が不十分で、「高さ4cm」という条件に惑わされてしまい、問題にある情報を適切に選んで判断できず、問題文の数字を機械的に公式等へ当てはめて計算している傾向がみられる。

【学習指導のポイント】

①「体積の定義」の再確認

体積とは、「1 cm³の立方体がいくつ分(何個)あるか」で決まること
「1cm³の積み木が36個集まったら、形や高さがどう変わっても体積は36cm³」であることの確認を行う。

②公式の丸暗記(形式的処理)からの脱却

「縦×横×高さ」の体積の公式だけに頼ると、数値を機械的にかけたり割ったりしてしまう傾向があるので、日頃の授業で立式までの課程をじっくり考える活動を行う。

③不要な条件(ダミー情報)を見抜く力を育てる

いつも必要な情報しかない問題を解くこととしないので、必要のない情報を入れて解かせ、必要な情報を選びとる力を身につける活動を行う。

④具体的・視覚的な操作

具体物の操作や体験活動を行う。体積の導入時に、1cm³の積み木を敷き詰めて量感覚を養う。

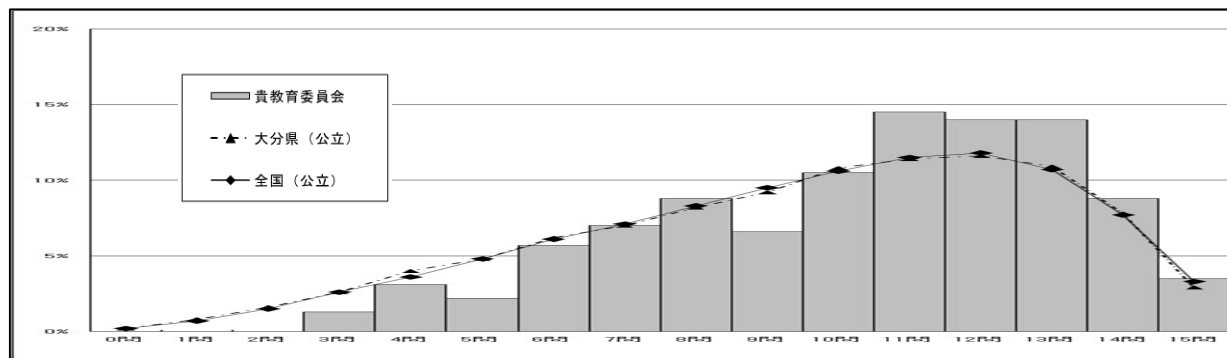
■結果のポイント

1 調査結果【正答率】

市	県	全国
69	64	63.9

○県・全国平均を上回る。

4 正答数度数分布



○低学力層の児童の割合(正答率20%以下)が県・全国平均より少ない。
○正答数が全国平均以上(10問以上)の児童の割合は県・全国平均を上回る。

2 領域別の結果【正答率】

観点	市	県	全国
言葉の特徴や使い方に関する事項	63.8	62.3	63.0
情報の扱い方に関する事項	77.2	68.3	70.4
我が国の言語文化に関する事項	—	—	—
話すこと・聞くこと	68.9	64.1	63.9
書くこと	73.8	67.0	67.4
読むこと	68.9	60.0	59.7

○全ての領域で県・全国平均を上回る。

3 観点別の結果【正答率】

観点	市	県	全国
知識・技能	66.0	63.3	64.2
思考・判断・表現	70.5	63.7	63.7

○全ての観点で県・全国平均を上回る。

■課題が見られた問題【正答率:低】

大問2(一)

	市	県	全国
正答率	69.7	68.4	68.5
無回答率	0.4	0.2	0.3

【出題の趣旨】

目的や場面に応じて、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題(話すこと・聞くこと)

【問題の概要】

合唱コンクールの学級目標を達成するための課題についてアンケートをとり、解決のために出された意見を、タブレットで共有しながら話し合っているという設定の大問。アンケートの結果を示した画面、話し合いの一部、話し合いを受けて整理した画面を読んで、発言の意図を説明したものとして適切なものを選択する問題。

【課題】

- アンケートの結果と話し合いの一部を合わせて読み取ることができていない。
- 選択肢中の言葉のうち、意味が広く曖昧なものを選ぶ誤答が目立った。選択肢の言葉を逐語的に読む習慣がない。

■課題が見られた問題【正答率:低い】【無解答率:高】

大問4(二)

	市	県	全国
正答率	35.1	33.0	35.2
無回答率	15.4	21.9	19.8

【出題の趣旨】

語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかをみる問題(言葉の特徴や使い方に関する事項)

【問題の概要】

「会話の表情を表す擬音語・擬態語」についての文章と「ほうふつとさせる」の辞書に載っていた意味を読み、指定段落中から同じ意味を表す言葉を探す問題。

【課題】

- 「ほうふつとさせる」の文脈上の意味が「脳裏に思い浮かぶ、よく似ている」だと分かって、同じような内容を表す別の表現を見つけることができなかったと考えられる。「ありありと映し出している」「心に思い描く」「包括的に含んだイメージを得る」など、なじみのない言葉が該当すると気づいたものの、前後の不要なことを含んだり一部だけを抜き出したりなど過不足のある誤答が目立った。

◆指導の改善

- ・学校や社会に関するテーマで話し合う活動はしても、話し合いを評価する経験が少ない。

☆指導の具体【臼杵市で取り組むこと】

- ・中学校生活の中で行う話し合い活動を見たり読んだりして、評価する活動をさせる必要がある。その際、複数資料を読み、そこから根拠を見つけ、立場や経験を踏まえて、発言の意図や適切さを評価させる観点をもたせる。
- ・紙の辞書を引き、複数ある意味から文脈上の意味を捉える経験をつませる。深く読むためにも、似た意味の表現や対照的な意味で使われている表現などに着目させる。

◆指導の改善

- ・自分のもつ語彙やなじみのある言葉を使って書くことはできるが、言葉を増やす学習や分類したり言い換えたりする学習活動が不足している。

■結果のポイント

1 調査結果【正答率】

市	県	全国
60	55	57.0

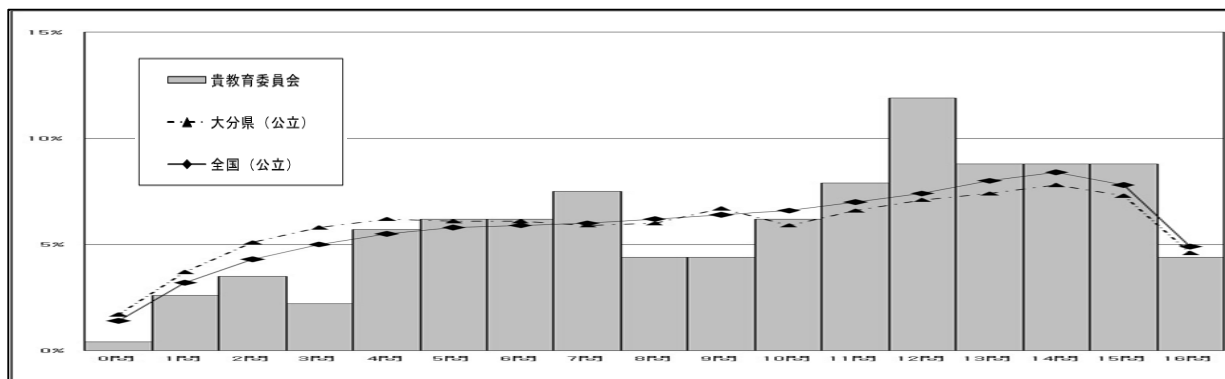
○県・全国平均を上回る。

2 領域別の結果【正答率】

観点	市	県	全国
数と式	71.5	65.4	67.8
図形	49.6	43.5	48.7
関数	61.5	55.2	54.8
データの活用	56.5	52.8	53.5

○全ての領域で県・全国平均を上回る。

4 正答数度数分布



○低学力層の児童の割合(正答率20%以下)が県・全国平均より少ない。
○正答数が全国平均以上(10問以上)の児童の割合は県・全国平均を上回る。

3 観点別の結果【正答率】

観点	市	県	全国
知識・技能	65.9	61.0	63.0
思考・判断・表現	44.1	36.5	39.1

○全ての観点で県・全国平均を上回る。

課題が見られた問題【正答率:低】

大問3	正答率	市	県	全国
		44.1	41.6	49.1

【問題の概要】

四角形PQRSにおいて、PS平行QRを示すための根拠となる2つの角を書く

【ねらい】

2直線が平行になるための条件を理解しているかどうか

【正答例】

∠cと∠f

【考えられる原因】

平行になるための条件(錯角が等しい・同位角が等しい)を図の中から見つけることができていない。2つの角の関係についても確認が必要。

◆指導の改善

☆定理をきちんと理解し、そのために必要な根拠が何かを図の中から見つけ出し、用語と意味をしっかりと結び付けて覚える必要がある。

☆指導の具体【臼杵市で取り組むこと】

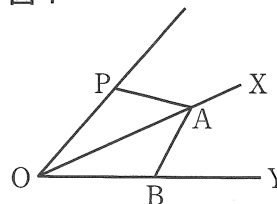
- ・学校別の分析をいかしたフォローアップや授業改善策が必要である。特に、誤答の内容を細かく分析し、校内で共有しながら授業の中でフォローしていく。
- ・数学用語を授業の中で活用させながら、用語の意味を理解させていく必要がある。
- ・証明や説明のための根拠を明確にする活動を増やし、互いにつけたしや改善をすることで筋道を立てて説明する必要がある。
- ・今後も日常生活と関連付けた問題を授業で扱い、授業で説明する場面を増やしていく。

大問8(2)

【問題の概要】

AB = AP、OB = OPならば∠AOB = ∠AOPであることを△AOB ≡ △AOPを示し、証明する。

図1



【考えられる原因】

証明の根拠を図形の中から、しっかりと見つけ出し証明することができていない。
証明の方針を立てることができず、根拠を明確にし数学的表現を用いて説明できていない。

◆指導の改善

☆筋道を立てて説明できているか。根拠は明確であるか。記号や用語の使い方は適切であるか。などの視点で証明をした後に評価・改善するための活動を取り入れていく必要がある。

正答率	市	県	全国
	41.9	37.9	46.1

【ねらい】

事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができるかどうかをみる。

【正答例】 次のa,b,c,dとそれぞれの根拠を記述し、証明。

a.AB=AP b.OB=OP c.OA=OA d.△AOB ≡ △AOP

- I. a,b,c,dとそれぞれの根拠あり (33.5%)
- II. a,b,c,dについて記述しているが表現が不十分(7.5%)
- III. I、II以外で正しく証明されているが不十分(0.9%)

■結果のポイント

1 調査結果【正答率】※CBTのためIRTスコアとしての数値

市	県	全国
489	483	499

▲全国平均を下回る。

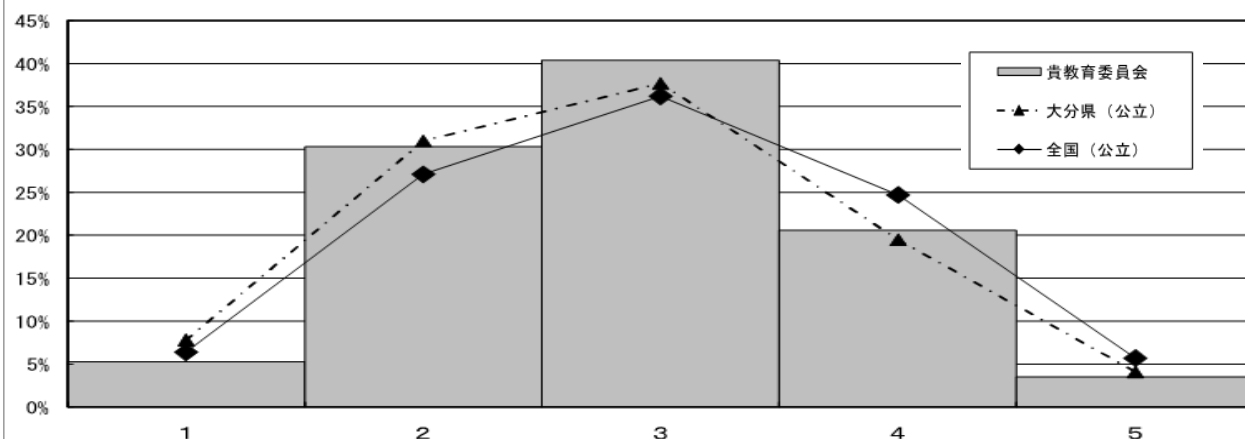
2 領域別の結果【正答率】

観点	市	県	全国
聞くこと	59.0	59.0	62.8
読むこと	61.0	57.5	60.0
書くこと	41.3	39.8	43.1
話すこと	32.9	29.2	36.7

○「読むこと」の領域で全国平均を上回る。

▲「聞くこと」「書くこと」「話すこと」の領域で全国平均を下回る。

4 IRTバンド分布グラフ (横軸:IRTバンド 縦軸:割合)



3 観点別の結果【正答率】

観点	市	県	全国
知識・技能	47.0	45.6	49.6
思考・判断・表現	46.8	44.2	48.9

▲全ての観点で全国平均を下回る。

■課題が見られた問題【正答率が全国よりも低い問題】

問題番号6

正答率	市	県	全国
	43.3	47.3	55.6

【問題の概要】

住みやすいまちづくりについての発表を聞き、話し手の最も伝えたいことを選択する。

【出題の趣旨】

社会的な話題について、話を聞き、要点を捉えることができるかどうか

【考えられる原因】

- ・社会的な話題は、生徒にとってなじみのない場合が多く、聞き取りに難しさを感じる生徒が多いため。
- ・話し手の意図を聞き取るためには、話し手の状況、話の概要を捉えつつ、要点をつかむ必要があるため。

◆指導の改善

「聞くこと」の指導においては

- ・話のあらまし(概要)の流れに従って理解する。
- ・話し手が伝えようとする最も大切なことは何かに注意しながら理解する。(I think ～など手がかりとなる表現も指導する)の2点を意識しながら「聞くこと」を指導する。

☆指導の具体【臼杵市で取り組むこと】

- ・領域別の正答率について「聞くこと」が全国を3.1ポイント下回っている。
- ・上にあげた大問6・9を含めて自校の解答率の低かった問題を確認し誤答分析を行う。
- ・英語の音声変化の特徴に着目させる指導をする。話の流れ(概要)話者の意図(要点)に着目した聞き方の指導をする。
- ・音読指導の強化を臼杵市全体として取り組む。音読を通して、基本的な音声の特徴、語と語の連結による音の変化(連結、脱落、同化、ら行化)、語や文の基本的なイントネーションを身に付けることができるように指導する。
- ・「読むこと」「聞くこと」の両方の領域において、「必要な情報」など特定な部分にとらわれるのではなく、「話の概要」や「話の要点」を捉えることができるようになる指導が必要である。

問題番号9

正答率	市	県	全国
	36.0	45.1	49.0

【問題の概要】

物語を読み、物語全体を通した登場人物の気持ちの変化を表したものを選択する。

【出題の趣旨】

日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉えることができるかどうか

【考えられる原因】

- ・概要を捉えながら英文を読むことができていないため。
- ・物語文を読む機会や気持ちの変化に着目しながら、英文を読み取る機会が少ないため。

◆指導の改善

「読むこと」の指導においては、

英文の一語一語や一文一文にとらわれるのではなく、話の概要を捉えるような読み方の指導を意識する。その際、登場人物の行動や、気持ちの変化、事実、話のあらすじなどを意識して整理しながら指導をする。

児童・生徒質問調査結果「勉強が好き」「勉強が分かる」

令和8年度

小学校

教科の勉強はどれくらい好きですか。
(肯定的回答割合)

教科	市	県	全国
国語	57.5	63.2	57.4
算数	61.0	61.0	57.6
英語	61.4	69.2	66.7

○算数が全国平均を上回る。
▲国語が県平均を下回る。
▲英語が県・全国平均を下回る。

教科の勉強はどれくらい分かっていますか。
(肯定的回答割合)

教科	市	県	全国
国語	82.5	85.9	81.5
算数	77.2	80.5	77.5
英語	—	—	—

▲国語が県平均を下回る。
▲算数が県・全国平均を下回る。

中学校

教科	市	県	全国
国語	62.2	63.0	57.2
数学	61.4	55.2	56.1
英語	60.9	52.8	51.2

○全教科県・全国平均を上回る。

教科	市	県	全国
国語	84.1	81.2	76.8
数学	73.4	71.6	74.2
英語	63.1	61.6	64.2

○国語が県・全国平均を上回る。
▲数学・英語が県・全国平均を下回る。

児童・生徒質問調査結果「勉強が好き」「勉強が分かる」

令和8年度

小学校

教科	市	県	全国
国語	57.5	63.2	57.4
算数	61.0	61.0	57.6
英語	61.4	69.2	66.7

- 算数が全国平均を上回る。
- ▲国語が県平均を下回る。
- ▲英語が県・全国平均を下回る。

教科	市	県	全国
国語	82.5	85.9	81.5
算数	77.2	80.5	77.5
英語	—	—	—

- ▲国語が県平均を下回る。
- ▲算数が県・全国平均を下回る。

令和5年度

教科	市	県	全国
国語	65.0	64.6	61.5
算数	70.4	61.6	61.4
英語	73.6	68.9	69.3

教科	市	県	全国
国語	87.6	87.4	85.7
算数	84.0	81.1	81.2
英語	—	—	—

教科の勉強はどれくらい好きですか。
(肯定的回答割合)

教科の勉強はどれくらい分かっていますか。
(肯定的回答割合)

児童・生徒質問調査結果「勉強が好き」「勉強が分かる」

令和8年度

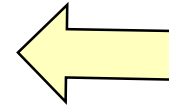
中学校

教科	市	県	全国
国語	62.2	63.0	57.2
数学	61.4	55.2	56.1
英語	60.9	52.8	51.2

○全教科県・全国平均を上回る。

令和5年度

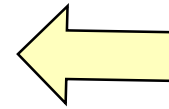
教科	市	県	全国
国語	71.7	62.0	61.4
数学	59.6	55.8	56.7
英語	53.9	52.8	51.9



教科	市	県	全国
国語	84.1	81.2	76.8
数学	73.4	71.6	74.2
英語	63.1	61.6	64.2

○国語が県・全国平均を上回る。
▲数学・英語が県・全国平均を下回る。

教科	市	県	全国
国語	88.6	80.1	80.0
数学	74.5	69.6	73.3
英語	61.0	61.9	63.9



教科の勉強はどれくらい好きですか。
(肯定的回答割合)

教科の勉強はどれくらい分かっていますか。
(肯定的回答割合)

児童・生徒質問調査結果から見える授業改善の現状①

小学校

中学校

課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。
【課題解決】

市	県	全国
71.1	78.5	77.6

市	県	全国
85.0	79.1	78.8

各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。【まとめ】

市	県	全国
79.3	76.0	73.4

市	県	全国
77.7	73.8	70.8

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。
【振り返り】

市	県	全国
79.8	81.7	78.4

市	県	全国
81.1	79.7	79.0

○【まとめ】【振り返り】【中：課題解決】が県・全国平均を上回る。

▲【小：課題解決】が県平均を下回る。「楽しくて力の付く授業づくり」を踏まえ、課題解決学習を児童の主体性を引き出しながら展開していく必要がある。

児童・生徒質問調査結果から見える授業改善の現状②

学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができますか。【対話活動・深い学び】

授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができますか。【日常生活への活用】

自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。【発表・表現の工夫】

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。【協働的な学び・非認知能力】

小学校

市	県	全国
86.4	87.0	85.7

市	県	全国
82.9	82.0	80.8

市	県	全国
61.9	61.0	66.4

市	県	全国
91.2	90.9	91.4

中学校

市	県	全国
93.5	88.4	87.0

市	県	全国
81.6	80.3	78.0

市	県	全国
60.5	57.9	65.5

市	県	全国
98.3	92.0	92.4

○【対話活動・深い学び】【日常生活への活用】【中:協働的な学び】が県・全国平均を上回る。

▲【発表・表現の工夫】【小:協働的な学び】が全国平均を下回る。

【発表・表現の工夫】話の組み立ての指導:結論(Point)→理由(Reason)→具体例(Example)→結論(Point)、一文を短くするルール作り
表現方法や形式を選択できるようにするなど、多様な発想を引き出す
発表心理的ハードルを下げる:事前に小グループで練習する時間の確保

【小:協働的な学び・非認知能力】課題解決へのプロセスと役割を明確にする

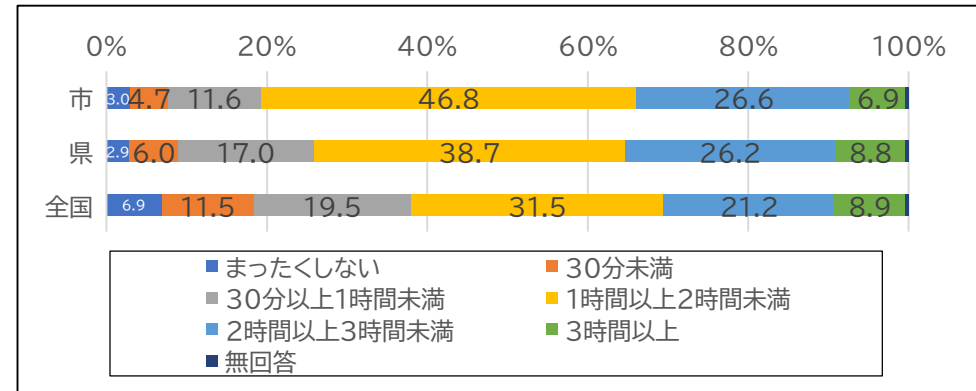
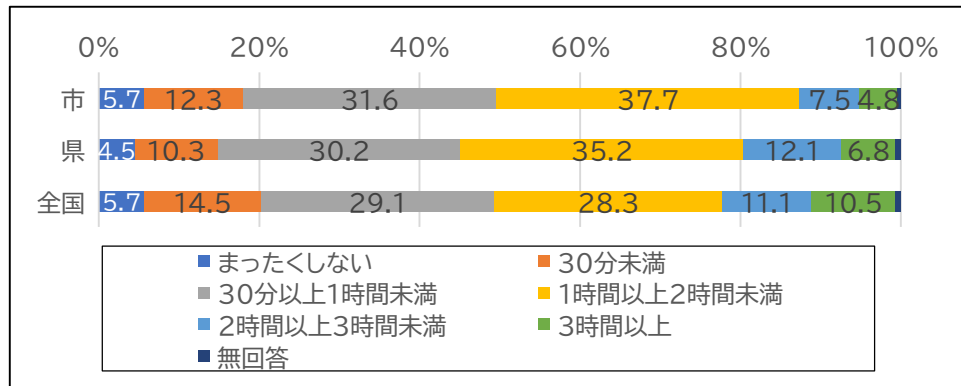
児童・生徒質問調査結果から見える学習・読書習慣の現状

令和8年度

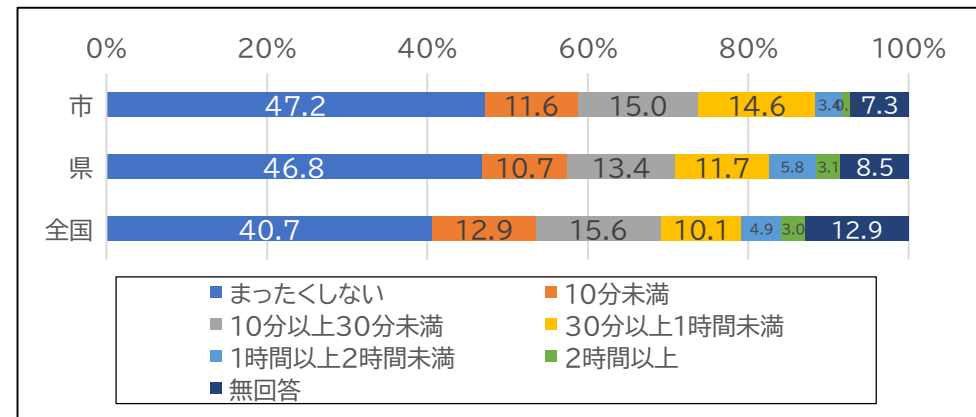
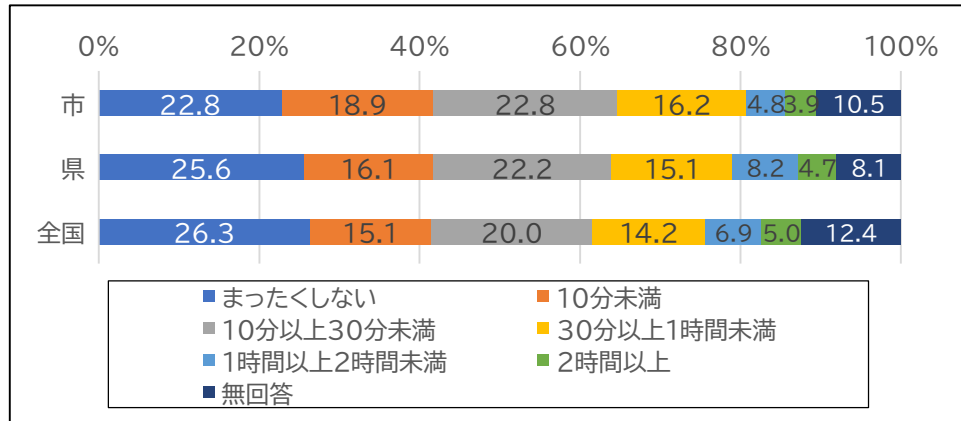
小学校

中学校

学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれぐらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます)



学校の授業以外に、普段、1日当たりどれぐらいの時間、読書をしますか。(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)



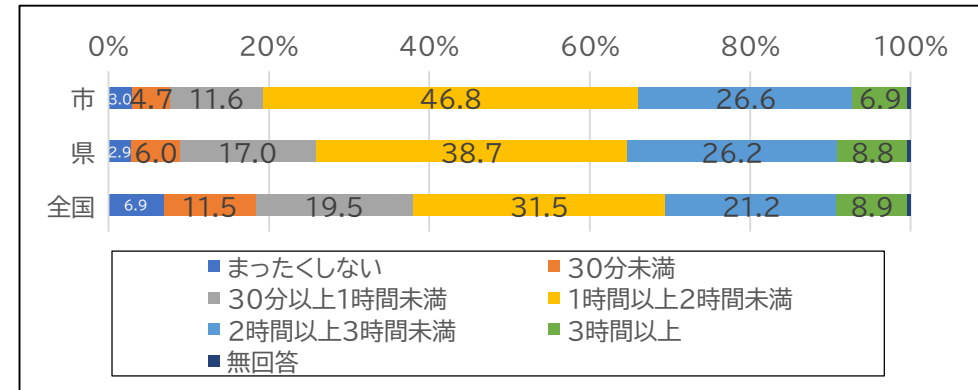
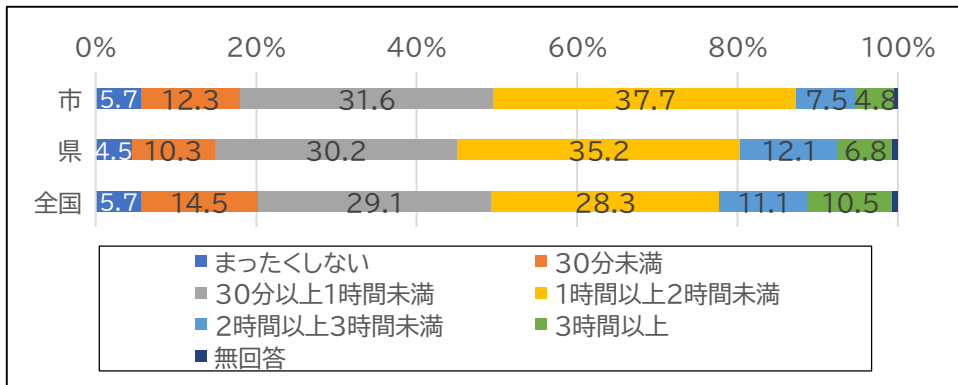
児童・生徒質問調査結果から見える学習習慣の現状

令和8年度

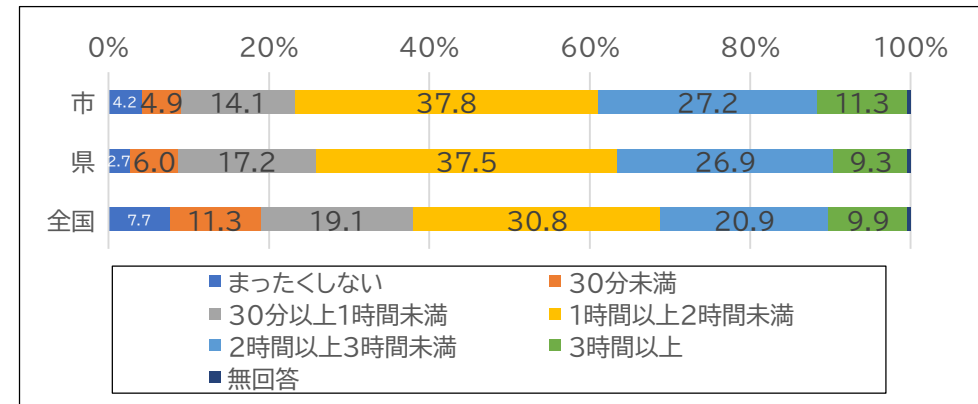
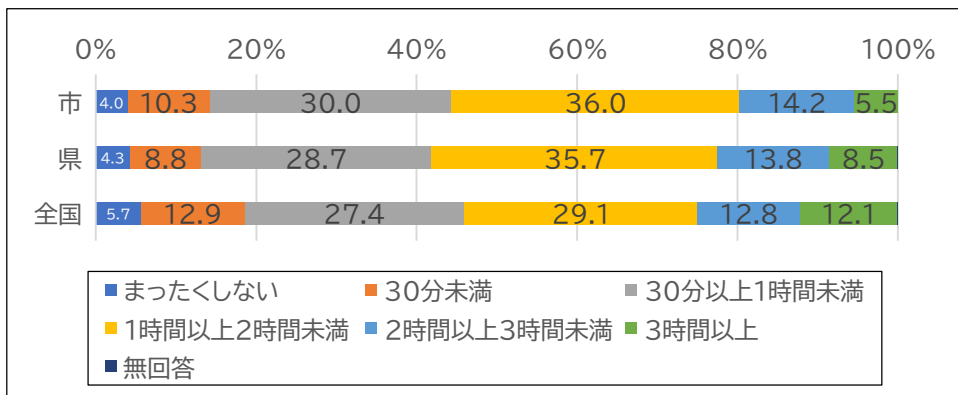
小学校

中学校

学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれぐらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含まれます)



令和7年度



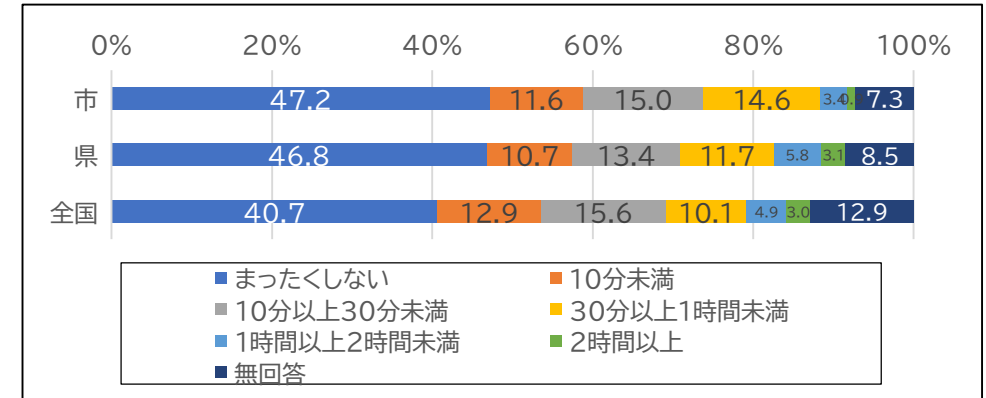
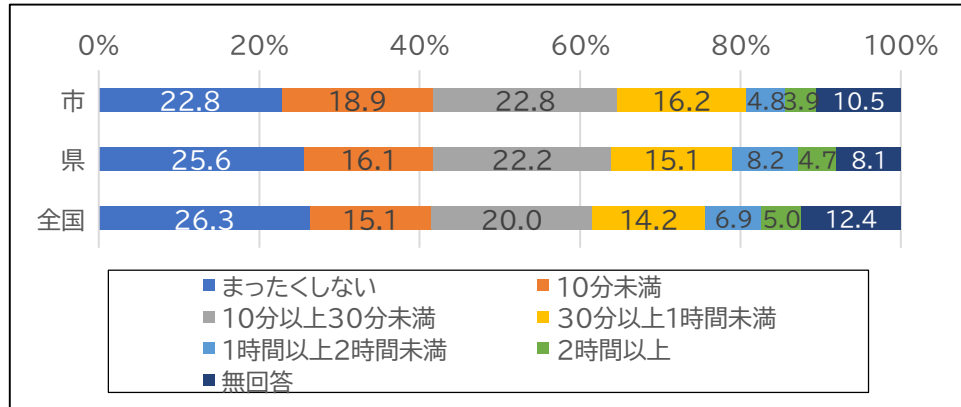
児童・生徒質問調査結果から見える読書習慣の現状

令和8年度

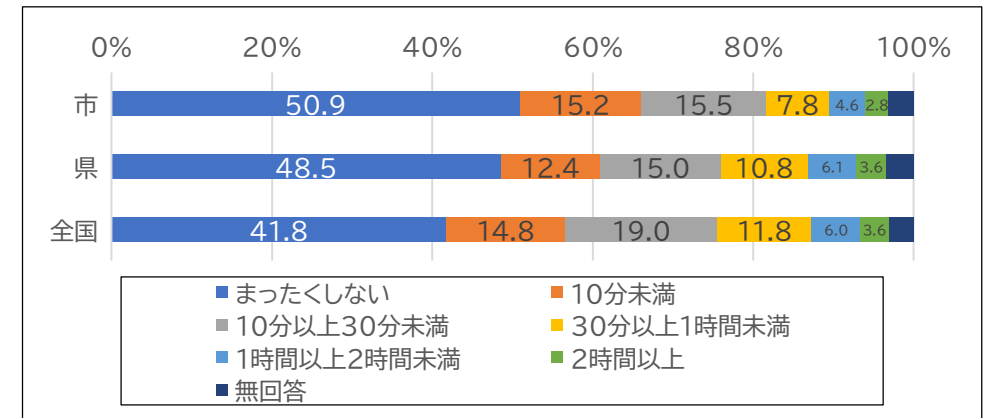
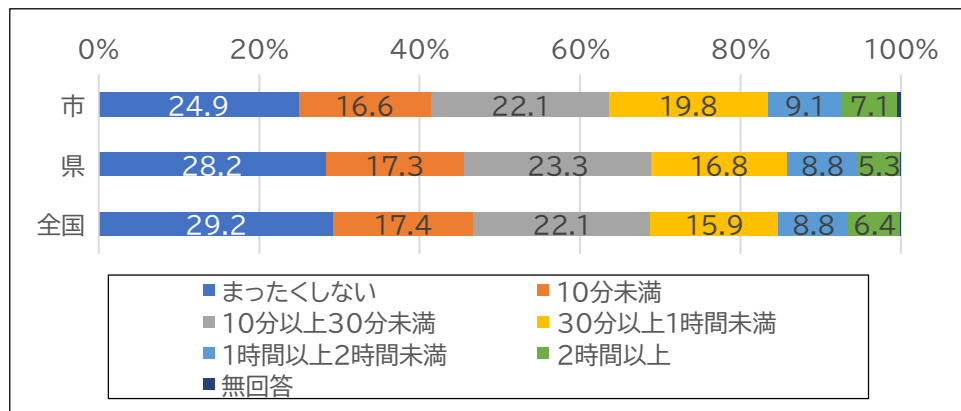
小学校

中学校

学校の授業以外に、普段、1日当たりどれぐらいの時間、読書をしますか。（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）



令和7年度



学校質問調査結果から見える授業の現状

児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどにに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。【教育課程の評価・改善】※1.よくしているの回答率

前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。【協働的な課題解決学習】※1.よく行ったの回答率

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。【主体的な課題解決学習】※1.そう思うの回答率

小学校

市	県	全国
69.2	66.5	42.5

市	県	全国
23.1	36.8	29.5

市	県	全国
23.1	29.7	20.4

中学校

市	県	全国
100.0	59.7	38.6

市	県	全国
40.0	32.8	25.4

市	県	全国
100.0	30.3	19.1

○【教育課程の評価・改善】【中:協働的な課題解決学習】【中:主体的な課題解決学習】が、県・全国平均を上回る。
▲【小:協働的な課題解決学習】が、県・全国平均を下回る。【小:主体的な課題解決学習】が、県平均を下回る。
【主体的な課題解決学習】教師主導からの脱却。児童生徒が自ら問いを立ち上げ、探究や選択・意思決定を行う
(プロセス・試行錯誤重視)指導へのシフトを図る。